

神の国の奥義(22)

= 人となられた神 =

御言葉:ヨハネ5:1 - 18

イエス、エルサレム(=宗教の都市)に上る ガリラヤとの対比

ベテスタ(「憐れみの家」の意味)の池の光景:無力で病気の人々の集合(=宗教の実情)

宗教の”救い”:天使が降りてくる時、一番先に入った者が癒される 人同士の互いの比較(水平方向)

イエス、38年間病気の人に尋ねる(垂直方向) ご自身との会話・対話をイエスは求める 病人は助ける人がいない、みな自分より先に行くとは回答 宗教の本質:宗教は手順とか教えの正しさを主張;互いの関係の中においてある条件を満たした人のみが救われると説く;自己憐憫に落ちている

主の命令:立って歩め 自己憐憫の払拭;主の言葉があるとき癒しをもたらす

パリサイ人の嫉妬:安息日論争 癒すことができる人は人となられた神イエスのみ

イエスとの再会:罪と分離

パリサイ人、イエスを付け狙う 宗教の特徴は嫉妬・妬み;表の宗教の顔の裏に隠されている動機

イエスは安息日の主;父の權威に服すること いのちの道

いのちの道のポイント:垂直方向(主との関係)と水平方向(互いの交わり)のバランス

暗証聖句

5:6 イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。

5:8 イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」

5:9 すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。

5:11 しかし、その人は、「わたしをいやして下さった方が、『床を担いで歩きなさい』と言われたのです」と答えた。

5:14 その後、イエスは、神殿の境内でこの人に出会って言われた。「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。」

5:15 この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。

5:17 イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」